

一般社団法人 日本公認心理師養成機関連盟 第12回研修会 『実践力』を身につける公認心理師養成のカリキュラムを目指して」開催

2023年2月19日(日)10時より、第12回研修会『実践力』を身につける公認心理師養成のカリキュラムを目指して」をオンラインにて開催しました。総司会は川畑直人先生(本連盟理事、京都文教大学)で、140名強が参加しました。公認心理師養成において重要な要素であるカリキュラム、授業、心理実習及び心理実践実習での取り組みについて、話題提供者から実践例が紹介され、また、グループワークでは、それぞれの現状と課題、工夫等について、議論と情報交換がなされました。

開会の挨拶

開会にあたって、鶴光代先生(本連盟会長、東京福祉大学)から、会員数等の報告と、厚生労働省令和4年度障害者総合福祉推進事業の一貫として、公認心理師実習演習担当教員及び実習指導者講習会(いわゆる法定講習会)のカリキュラムの調査が実施されていることが紹介されました。当該事業には本連盟からも、学識者や養成機関の教員、現場実務者から成る「検討委員会」及び「ワーキンググループ」にそれぞれ委員を出しており、12月には法定講習会の実施に向けたモデル講習会が実施されたこと、その結果を踏まえて次年度以降の講習会が準備されること、本連盟も講習会実施者の役割を果たしたいと考えていること等が報告されました。結びとして、会員の先生方に引き続き協力をお願いしたいとのお願いがありました。

講演

元永拓郎先生(本連盟理事、帝京大学)を講師として、「改めて公認心理師養成のカリキュラムを考えるー公認心理師のコアコンピテンシーを育むカリキュラムとは？」とのテーマの講演が行われました。オーガナイザーは、佐藤宏平先生(本連盟実習演習検討委員会委員、山形大学)でした。



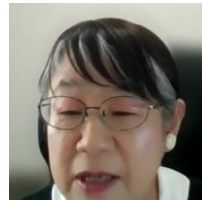
元永拓郎先生



佐藤宏平先生

セッション1: 実践力につながる大学課程の授業

オーガナイザーは、宮崎圭子先生(本連盟実習演習検討委員、跡見学園女子大学)、話題提供は、宮崎昭先生(本連盟理事、立正大学)と花村温子先生(本連盟実習演習検討委員、JCHO 埼玉メディカルセンター)でした。



宮崎圭子先生



宮崎昭先生



花村温子先生

1. 宮崎昭先生 実践力につながる授業の一例として「健康・医療心理学」の授業計画や工夫が紹介されました。公認心理師を目指す学生の実践力としては、「含まれる事項」として示された内容の到達目標を、必ずしも目指さない学生の実践力としては、他の資格や進路選択、今後の人生で役立つ到達目標を達成させるようにしていること、同時に、その双方方を満たす工夫として、学習者中心の教育である「インストラクショナルデザイン」の原理を活用した取り組みを行っていることを具体

目指すべき公認心理師像：コンピテンシー・モデル（一多要因実践家モデル）をふまえた公認心理師養成のあり方

コンピテンシー・モデルを念頭においてコアカリキュラムと実習基準を策定し、質の高い実践を行える公認心理師を養成する

1. 「コンピテンシーモデルに基づくカリキュラムの提言」報告書について 報告書は、概念図を基に、どのような公認心理師を養成するかを念頭において作成されました。基本的には、

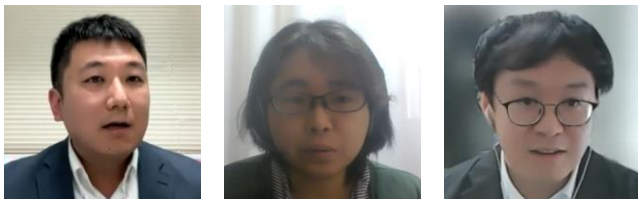
的にご説明いただきました。小テストや演習課題、学生の質問への回答例、視聴覚の教材等についても、実例を元に丁寧にご提示いただきました。

2. 花村温子先生 「公認心理師の職責」のシラバスと授業の進め方について、ご紹介いただきました。授業は前回の復習・質問への回答から開始され、続いて、事例や写真、当事者の声やご自身の体験、動画等を使用しつつ、当日のテーマの学習、関係する国試問題 1 題、症例提示、まとめと小レポート提出、と進められていました。ご自身の専門分野以外の単元については、その分野を専門とする公認心理師から情報を収集して、授業に反映させているとのことでした。現場のリアリティを伝える工夫が随所に感じられました。

3. グループワーク(意見交換)とシェアリング 大学課程のカリキュラムの工夫や課題等について、熱心に情報交換とディスカッションが行われました。全体のシェアリングでは、公認心理師資格取得を目指さない学生への対応例について、改めて両先生からご説明をいただきました。

セッション 2: 大学附属心理相談施設の「心理実習」(大学)について

オーガナイザーは、武内智弥先生(本連盟実習演習検討委員、淑徳大学)、話題提供は、中鉢路子先生(青山学院大学)と田中寿夫先生(淑徳大学)でした。大学課程の「心理実習」で、大学等附属心理相談施設を含めた実習を行っている先生方に、それぞれの大学での取り組みを示していただきました。



武内智弥先生

中鉢路子先生

田中寿夫先生

1. 中鉢路子先生 青山学院大学では、実習初期に 5 時間の大学附属心理相談施設の見学実習(事前指導・事後指導を含む)が実施され、施設の機能や役割だけでなく、実習先での態度や振る舞い等の修得も目的とされていました。1、2 年後には自分が大学院生となり、クライアントを担当することを実感し、「公認心理師を目指した大学院生になる覚悟」が養われる機会となっていることが、リアルな感想を交えて紹介されました。

2. 田中寿夫先生 淑徳大学では、大学院附属心理相談施設での実習が、見学型 1.5 時間、体験型 6 時間の計 7.5 時間実施されていました。体験型実習は、施設職員や実習担当教員と電話受付やプレイセラピー等のロールプレイを行う実践的なものでした。自分で考えて目の前の人に関わること、自分自身を使うことの難しさを学生たちが実感しながら、学びの視点や主体性が刺激される様子を紹介していただきました。

3. グループワーク(意見交換)とシェアリング 大学附属心理相談施設においても、学外実習施設と同様に巡回指導が必要であることが話題となりました。「心理実習」では、実習指導者が実習生を指導することが困難な場合、成績の適切な評価と安全確保に対応できることを前提に、引率する実習担当教員が実習施設にて指導を行い、引率と巡回指導を兼ねることが認められることが共有されました。公認心理師制度推進室からの解説を、公養連ホームページに掲載しております。

セッション 3: 大学附属心理相談施設の「心理実践実習」(大学院)について

オーガナイザーは、上田幸彦先生(本連盟実習演習検討委員、沖縄国際大学)、話題提供は、松田真理子先生(京都文教大学)と平間さゆり先生(本連盟実習演習検討委員、川村学園女子大学)でした。まず上田先生より、担当ケースの確保、担当者の資質、院生の配置等について問題提起がなされました。



上田幸彦先生

松田真理子先生

平間さゆり先生

1. 松田真理子先生 京都文教大学では、M1 が所定のセンター研修を終えたら、科目担当教員の承認と研究科委員会での審議・承認を経て、大学附属心理相談施設でのイニシャルケースのエントリーが可能となる等、丁寧にステップを踏む教育が紹介されました。見立て分類表や、ケースカンファレンス、SV のスキーム、実習時間の具体的内訳についてもお示しいただき、最後に院生教育の課題を複数挙げていただきました。

2. 平間さゆり先生 川村学園女子大学の大学附属心理相談施設の概要及び院生の運営業務について、ご説明いただきました。心理検査では、学生が実施・解釈するものと、実施・解釈・所見作成は教員が行う場合が多いものがありました。ケースの振り分けでは、学生の習熟度、学生の特性・状態、クライアントとのマッチング、学生の状況が考慮されていることが示されました。その他にも、SV 指導やカンファレンス等、センター紀要に掲載するようケースをまとめる流れが説明されました。

3. グループワーク(意見交換)とシェアリング 養成機関で共通する課題も多く、熱心に議論が交わされました。全体でのシェアリングでは、両校の取り組みについてさらに詳しくご紹介いただきました。

閉会の挨拶

野島一彦先生(本連盟常務理事、はぐくみ心理相談所)より、研修会参加のお礼と閉会の挨拶がありました。また、「コンピテンシーモデルに基づくカリキュラムの報告書」にご意見をいただきたいとのお願いがありました。

当日アンケート

当日アンケートでは、4 年間の養成を通してカリキュラムを改めて考え直した、公認心理師志望者以外の学生への教育を工夫したい、各大学の取り組みが参考になった、等のご意見をいただきました。各セッションの後半で行われた小グループでの意見交換の内容は大変貴重な情報であり、これまでの研修会と同様、情報を匿名化して取りまとめたものを、公養連ホームページの研修会サイトにて会員に公開しています。

一般社団法人 日本公認心理師養成機関連盟
事務局 〒169-0075 東京都新宿区高田馬場 1-31-16-508
お問合せは、連盟ホームページ「お問合せ」フォームからお願いします
URL: <https://kouyouren.jp>